

【特選】

ひらがなで老後のことは考える 香川 大廣トモ子

「ひらがなで考える」から片意地を張らず、簡素に周囲と仲良く過ごして行きたいとの気持ちがよく伝わります。自己責任と自助努力を求める動きがますます強まり、何かとギクシャクする世情、「ひらがな」のやさしさを共有したいものです。

令和三年みんな酸素が欲しかった 富山 山下 功

令和三年もコロナで明け暮れました。マスクを外し、胸いっぱい空気を吸い、自由に行動したいとの願いは叶わず、観劇、旅行、外食などを控える自粛生活が続きました。まだ終息時期の見えないコロナ禍に詠まれた作品として評価しました。

主語だからそこに譲れぬものがある 愛知 本多 雅子

子どもや孫との価値観の違いを時代の流れでやむを得ないと思いつつ、家長として守り抜きたいものとは何か？主語＝名詞と考えると努力、誠実、勤勉などが浮かびます。家族を支え、よく頑張ってきたという作者の自負が伝わってきます。

【秀作】

「雨ニモマケズ」働く蟻の詩である

岩手 野口 一滴

人生のゴールに要らぬ順位表

富山 有澤 嘉晃

脱炭素肩身が狭い黒ダイヤ

大阪 黒田 すみ子

糶殻を焼いて田圃と握手する

徳島 福本 清美

ゲルニカの怒り平和は茨道

愛知 浅井 典子

縄のれんみんな野党の貌になる

岡山 ミヤモトシンキチ

青と藍心をいやす海が好き

神奈川 梶原 清介

日溜りの茶飲み夫婦はひとつの絵

福井 巽 俊一

巣ごもりでこんな所に肉がつく

茨城 村野 美千子

羽繕いしておくいつか翔ぶために

山形 中川 晴海

# 片岡加代選

雑詠

## 【特選】

命ってすごい花瓶の水が減る 兵庫 竹中紀久子

生き物は水が無いと生きていけない。自然界に生きる動物はリスクを冒してでも水を求めてやってくる。作者は花瓶の水を毎日替えているのだろう。ごくごくと水を飲む水の息遣いまで聞こえる。水の減りように命を見る川柳眼に惹かれた。

春よ来いマスク要らない春よ来い 熊本 中原たかお

今の世の中の誰もが願っている思い。コロナのおかげで私達は待ち焦がれていた春を二度も失った。今年こそ思いは強い。春よ来いのリフレインがそんな気持ちを代弁してくれる。思わず「春よ来い早く来い」の歌を口ずさみたくなる。

笑い足りなくて此の世をまだ去れぬ 青森 田鎖 晴天

苦楽ない交ぜの人間の一生。人生の最後にはちゃんと不幸の帳尻は合う。とよく言われる。作者はこれまでの歳月に見合うだけの喜びを得てからでないと、とてもとてもあの世へは行けぬと言う。「笑い足りない」の措辞がずつしりと響く。

## 【秀作】

いいニュース欲しい乾燥注意報

青森 瀧尻善英

待つ人がいるんだ窓の灯が温い

京都 井上京一郎

振り返るたればのあの分岐点

福岡 富永紗智子

飛び越えたつもりの足が引つ掛かる

石川 林國夫

リベンジは踏切り板をしならせて

島根 伊藤玲峰

いっぱい好き花束にして贈る

福岡 もりともみち

一押し笑顔マスクで見せられぬ

東京 伊藤静代

空腹の脳へ活字を召し上られ

埼玉 福田清

百までの余白を満たす好奇心

静岡 新澤きよ

土曜日郵便受けを見てしまう

埼玉 青鹿一秋

# 石神紅雀選

課題「ゆるい」

## 【特選】

セーターに未来編み込むたつぷりめ

青森 三浦 友久

子どものセーターを編んでいる。2〜3年は着てもらわなくちゃと大きめに編む。まさに未来を編みこんでいることになる。一針一針、子の未来を思いながら丁寧編んでいる。何と楽しみな「ゆるい」だろう。

アバウトもいいよね丸い絵が描ける

茨城 佐瀬 貴子

きつちきちに管理しないで、適当なゆるさが様々な可能性を引き出す。そこには信頼がある。信頼されている安堵感が丸い大きな絵を生み出すのだ。語りかけるような表現が、ますますこの句を魅力的にしている。

千年の雫ゆるりと石を削ぐ

奈良 笹倉 良一

スケールの大きさに参った。奥深い山の中で誰に知られることもなく、ぼたりぼたりと悠久の時を重ねる。わずかなものでも信念を貫き通す強さを見た。

## 【秀作】

第三者だから言いたい事を言う

愛知 本多 雅子

また来るとゆるい約束して帰る

香川 みよし すみこ

許されたのだから口角がゆるむ

山梨 鮎川 弘子

兜の緒ゆるめ煮崩れするカボチャ

青森 瀧尻 善英

はらわたにほんわか沁みる御説教

静岡 竹内 禮治

しつけ糸ゆるく返品されている

大阪 三ヶ津 つや子

ちゃん付けて呼ばれどっと力抜け

茨城 唐田 秋子

明日がある明後日もある老いの日々

鹿児島 脇田 靖子

三分がゆ生きる勇気がわいてくる

長野 佐藤 崇子

九条が平和の中でゆるくなる

富山 すずき 善作

【特選】

プレートの緩み知つても住むヒト科 福島 熊坂よし江

プレート境界型の巨大地震を想像した。ヒト科が地球に住み続けるには、地震は宿命と言えらるものだろう。「ゆるい」からこういう発想をしたのはこの句だけだった。地震の怖さを冷静に観察して川柳に詠み上げる。素直に上手いと感じた。

子の悩みゆるいカーブで様子見る 兵庫 谷澤佳代子

子の悩みは直球で投げてきたのかもしれない。親として直球で速やかに返球するのもいいが、変化を付けて対応することも一つの方法となる。ゆるいカーブは何度も投げられたのではないか。そのように推察することで広がりが出てくる。

また来るとゆるい約束して帰る 香川 みよしすみこ

どこの国の言語にも、別れの挨拶に「また会いましょう」という意味合いを込める言葉がある。誰かを見舞った光景を想像した。ゆるい約束だから、来なかつた、来られなかつたことも推し測られて、奥行きのある味わいを与えてくれる。

【秀作】

セーターに未来編み込むたつぷりめ 青森 三浦友久

まだいけるベルトの穴はあと一つ 愛知 小原庄助

改革はゆるめが好きな日本人 福岡 藏田正章

緩かつた法の隙間に土石流 大分 若杉幹夫

ゆるいけど握り返して逝つた君 富山 黒田留美子

ゆるいのは内緒ガラスの靴を履く 青森 三浦幸子

くれるからいただきましたばら蒔きを 長崎 福田登志子

煮え切らぬ恋を揺さぶる変化球 東京 今村龍助

平和ぼけパンツのゴムはゆるいまま 広島 新庄芳春

はじまりはゆるいカーブの食い違い 埼玉 吉田みいこ

# 島田駱舟選

課題「国」

## 【特選】

溶け出した水に国をかじられる 三重 橋倉久美子

かじられる最たる国は島国で、領土が水没し始めています。地球温暖化で溶けた氷河が海面を上げたためです。人間の経済活動を叱るかのように、自然が具体的にダメ出しを始めたイメージが伝わってきます。声高に温暖化阻止を叫ばずに、柔らかな言葉で警鐘鳴らしています。擬人法が効果的です。

国会も世の縮図ならあんなもの 奈良 大久保眞澄

国会中継を見ていると腹立たしくなる、という人がいます。確かに首を傾げる場面が多くあります。しかし、それが日本社会そのもの、と作者は喝破しました。この観察眼は国会の本質を衝いています。下五を軽く納めているのも内容とマッチしています。対象を自分に引き付けたいと詠めない内容です。

国境でがんじがらめとなる地球 茨城 唐田 秋子

この作品では国境は国家と同じ意味に使われています。また、地球は自国民を含めた、世界の人と地球の両方を指しているでしょう。どの国も自国中心ですから争いは必然です。その結果、世界の人と地球を困らせているのは国家、と厳しい眼を向けています。十七音の国家論と言ってよいでしょう。

## 【秀作】

ファッションに少し傾く対コロナ 広島 穴戸 三喜恵

天国で高山病になり戻る 富山 笠嶋 祥子

その後の国を知りたい特攻機 広島 北村 善昭

国訛り消えてまじくなくなった地酒 岐阜 岡 哲心

国引きをどこかの国が真似ている 広島 野村 賢悟

噛む程に鎖国の文化味が出る 埼玉 柳田 二郎

国旗振る楽しさヤバさ知っている 愛知 山口 清和

雪国が電波に乗ると風物詩 群馬 黒崎 和夫

地球儀を回せば火の粉舞いあがる 山口 岩瀬 元介

国民が忘れることを待っている 神奈川 金澤 紀六

# 毛利由美選

課題「国」

## 【特選】

団塊の世代に老いは未知の国 東京 中野 晃一

私は団塊世代の一つ後ろの世代だがこの気持ちは納得できる。加齢という毎日が初体験。凹みながらも楽しんでいく自分がある。団塊世代がこれから闘ってゆく「未知の国」。まだまだ先は長い。

ニッポンで名前の響きだけで好き 愛知 山口 清和

こと地名をカタカナで書くときは悪いイメージがつきまとうことが多い。それを覆すのがこの「ニッポン」。ひらがなだと「にほん」となるところをカタカナで書けば勢いがつく。応援団も「ニッポン」と声をあげる。元氣になれる気がする。

国道を凱旋のごと耕耘機 茨城 中山 久子

こんなにはまる表現がほかにあるのか。農道から出てきたと思うと国道を堂々と低速で走る。後続車が何台いようとおかまいなし。この存在感とゆるゆる走るさまは完全に「凱旋」。この言葉にやられてしまった。

## 【秀作】

喉仏最後に拾う箸の国

大分 西 東 南北

大の字は畳に限る国自慢

大阪 藤 井 裕 美

冠雪の富士は国際ドレッサー

大阪 美 馬 りゅうこ

まる四角お国自慢をする雑煮

愛知 浅 井 典 子

母さんのレパトリートりも多国籍

香川 大 廣 トモ子

無作為に手を繋ぎ合う万国旗

東京 宮 本 彩 太 郎

留学生母国自慢を日本語で

大阪 諏 訪 陽 子

国産に誇りをもつて農を継ぐ

宮 崎 惠 利 菊 江

親も子も年金もらう長寿国

福 井 光 風 雫

老いた母温い童話の国に生き

岡 山 太 田 睦 美